

繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山 1748

天理教繁藤大教会

Tel 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

謹賀新年

皆様のおかげで今年も無事に新しい年を迎えることができました。旧年中は皆様よりお心寄せ、お力添えを賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

この三年千日を振り返ってみると、私個人的に、また大教会はじめ部内教会の上にも、様々な形で「成人の節」をお見せいただきました。その節のたびに、「どうしてなんだろう。親神様・教祖はどんなメッセージを私に下さっているのだろう。」と思案を重ねてきました。「節から芽が出る」と教えられますが、「生き節」になるかどうかは、私たち人間にかかっています。時間がかかることもあるかもしれませんが、しかし、どんなときも「明日に希望を、今日を陽気に」のスローガンを心において皆様と共に歩んでいきたい。その思いは、教祖百四十年祭後、新たなスタートを切った先も変わりません。

さて、いよいよ一月二十六日を迎えます。おちばで皆様とお会いできるのを心から楽しみにしています。

立教一八九年 元旦

天理教繁藤大教会長

坂本輝男



【主教百八十八年 十二月月次祭 祭文】

これの繁藤大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に
天理教繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。

親神様の深く厚き御守護のまにまに日々恙なく結構にお連れ通り頂く
中、早くも師走に入り、本日十二月の月次祭を執り行う日柄となりました。
思い返せば本年は教祖百四十年祭に向かう三年千日の最後の年
として、諭達をもって心を合わせ、ようばく一人ひとりが心の成人につと
め、時句の歩みを勇んで進めさせて頂きました。この句において、身近な
家族や教会信者などにお見せ頂く身上や事情、また日本のみならず世
界に起こる諍いや分断など様々な事柄を通して、一れつ人間の成人をお
急ぎ込み下さる親心が込められた節をお見せ頂きました。親神様の深
き思召に添わせて頂けるよう、また各々の立場で教祖の道具衆の自覚
をもつてつとめさせて頂いたつもりで御座いますが、振り返るとまだまだ思
召に添う歩みには遠く及ばぬ処があったことと反省の念も抱くばかりで御
座います。しかしどんな中にも、親神様の火水風の御守護をはじめ、身の
うちかりものの妙なるお働きを頂いて恙なくお連れ通り下さる御慈愛の
程は、誠に有難く勿体ない極みで御座います。只今から恒例により、おつ
とめ奉仕者一同心を一つに合わせ、陽気に座りつとめ、てをどりをつとめ
て、本年納めの御祭りを執り行わせて頂きます。折柄の寒さも厭わず遠
方近方より参帰集うようばく、信者と共に、日頃賜る御恵みに感謝申
し上げ、変わらぬ御守護と御導きをお願い申し上げたいと存じます。年
明ければ、いよいよ教祖百四十年祭を迎えます。私共教会長を始め、
ようばく一同は一段と心を引き締め、足並を揃え、仕切つてたすけ一
条に励み、この大切な句を最後まで懸命につとめ切らせて頂く所存で御
座います。何卒届かぬところは幾重にもお仕込み下さり、一日も早く神
人和樂の陽気づくめの世の状に御導き下さいますようお願い申し上げま
す。加えて、ここにこの一年の間にかけ下さいました数々の親心に重ね
て御礼を申し上げ、併せて来年も変わりなくお連れ通り頂きますよう
御守護の程を一同と共に慎んで御願い申し上げます。

《繁藤大教会 立教百八十八年十二月 祭典役割》

祭主	指図方	属者	属者	賛者	賛者		男	女	地方	笛	チャンポン	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓	神殿講話					
大教会長	宮田孝道	村上英士	空閑一将	立花真一郎	田村省悟	座りづとめ	大教会長 前大教会長 近藤徳彦	大教会長夫人 前会長夫人 黒石伸子	宮田孝道 村上英士 藤田一憲	田村久徳	為田紀久男	藤田憲明	佐藤栄治	田村辰久	坂本久徳	藤田洋美	空閑さとの	村上美栄子	田村久徳					
八足出し						てをどり前半	空閑一将	伊藤正福	立花真一郎	宮田まゆみ	田村睦美	武市まち子	為田基紀	川田節夫	空閑一教	宮田教一	宇山基紀	佐藤成彦	佐藤節幸	佐々木恵	坂本喜子	佐藤文代	為田賢子	空閑都
田村聡佐	立花真一郎	佐々木恵	田村省悟	村上由高	空閑慶吾		てをどり後半	黒河明大	藤田誠	佐藤明子	村上綾	宮田みなみ	田村聡佐	前田豊	秋月英希	坂井博文	石田実郎	村上由高	立花孝一	黒石忠宏	村上修	黒石美佐	田村育与	

【神殿講話】

(1月) 山田清三先生

(本部准員)

【しげとうtime おかえり講話】

(1月) 大教会長

【教会長神殿当番】

(1月) 本訓・紋湧

(2月) 武富士・高阪

【詰所事務当番】

(1月) 村上 修

松下 剛治

(2月) 前田 優一

【ひのきしん】

○本部食堂ひのきしん

5月16日～30日 種崎

11月1日～15日 別府

○婦人会詰所ひのきしん

1月25日～26日 (各直属1名)

【五季づとめ】

一月は五季づとめの月でございますので、左記の通り上級を通じてお納め下さいますようお願い申し上げます。

記

一、五季づとめ 三、〇〇〇円

【立教189年春季大祭について】

教会本部より、立教189年の各教会での春季大祭のつとめ方についての通達がございました。先月号月報に、春季大祭のつとめ方についてと、祭文例を同封致しておりました。通達どおりおつとめ頂きますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

【年頭の集い】

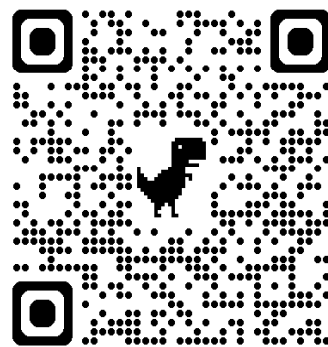
毎年1月20日に開催しておりました「年頭の集い」は、名前を変更いたしましたして、3月21日に開催させて頂きます。詳細につきましては後日お知らせ致します。大勢ご参加頂

ますよう、心づもりの程、よろしくお願いいたします。

【教祖百四十年祭帰参報告】

各教会には、これまでに2回の帰参予定の報告をして頂き、誠にありがとうございます。これまでに報告頂いたのはあくまでも予定の報告でしたので、最終的な宿泊食事数の申込みを今一度お願いいたします。大勢の方が詰所を利用されます関係上、恐れ入りますが**今月14日迄に詰所まで**お願いいたします。申し込み分の食事の変更は23日まで可能です。併せて、**26日の昼食のお弁当の数も、今月14日までに申込み頂きますよう、**どうぞよろしくお願いいたします。別紙申込み書を同封いたしております。

又、教祖百四十年祭特設ホームページを設けて頂いております。各種交通情報やマップ、受入れ等をご確認頂けますので、どうぞご活用下さい。



教祖 140 年祭特設
ホームページ

【少年会】

◎研修員募集

少年会本部では、おちばでの様々な研修やひのきしんなどの伏せ込みを通して、縦の伝道を活発に推進していく人材を育成します。道につながる多くの若者たちが、この研修を修了し、国内外で少年会活動の中心となって活躍します。多くの仲間と共に少年会活動について学びたい方は団長までご連絡ください。

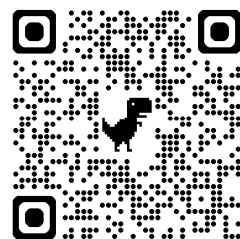
募集人数 30名

出願期間 令和8年2月28日まで(必着)

出願資格 団長が推薦し、直属教会長が認めた者・ようぼく

(おさづけ拝戴予定の者も可)

左記のQRコード・URより、詳細がご覧頂けます。



<https://happist.net/event>

【教会教費振込について】

教会教費は郵便局より振込みする事が出来ます。

(郵便局) 宛先 天理教経理部

No.00940-7-31430

【訃報】

紋別分教会四代会長 渡邊國源大人が、12月25日お出直になりました。

享年75歳

記念行事 講演会

4月18日(土) 午後5時

テーマ「おやさま」

・第2食堂(第5食堂 映像)

・東講堂(旧別席場 音声のみ)

・東右第1棟4階講堂

【学生会】

学生生徒修養会の「大学の部」が、3月4日

～8日まで、「高校卒業生コース」が、3月10日～12日までの日程で開催されます。対象になります学生さんにお声掛けの程、よろしくお願ひします。申込み締切りは2月15日迄です。

【おさづけの理拝戴者(11月)】

實彌原 田村 諭 澄

【おまもり】

3 件

【修養科修了生（1012期）】

徳能 黒河 重信



天理教教義について全く知識のない私（85才）が、修養科に入って、教典・教祖伝の授業を受けるようになって、1ヶ月目はあまり興味を持たなかったけれども、2ヶ月目から授業が進むにつれて、十全の守護、かしのかりものの理、八つのほこり等の教えを聴いて、その日から真剣に授業に耳を傾けるようになりました。特に、かしのかりものの理には深い感銘を受け、天理教は本当に素晴らしい宗教であると確信しました。その上は、この教えを世間の人々にももっともっと知っていただきたいと考えるようになり、修養科修了後は年齢的に布教は難しいですが、まずはチラシの配布から布教活動をはじめたいと思っています。

北大津 星野 善胤



修養科1ヶ月目は不足の心ばかりを抱き、その心遣いから人の悪い所しか見えず、人の悪い所しか見ないからまた不足を抱き、不足に不足を重ねる日々でした。そのため主任先生、教養掛の先生方、同室のいる前で感情を爆発させてしまい、迷惑をかけてしまいました。その時、先生方のお話を聞かせて頂き、いかに自分がこうまんな心遣いをしている事に気付かせて頂く事が出来ました。この間違った心遣いを変える事が出来たお陰で2カ月目以降、毎日笑い、毎日楽しく、毎日勇んで通る事が出来ました。これから自教会に帰り、自教会での生活に戻りますが、この修養科生活3ヶ月で学んだ事を糧に日々勇んで通りたいと思います。



教祖百四十年祭

140TH
ANNIVERSARY
OF OYASAMA

天理教教会本部

教祖 百四十年祭

立教189年
〈令和8年・2026年〉

1月26日(月)

午前10時30分

こっぴに
おちばへ